

“百年の信頼を、未来につなげる”

株式会社鳥羽洋行
2026年3月期
決算説明会資料

2026年5月12日(火)



当社は今年創業120周年を迎えます

これもひとえに皆様の日頃のご支援の賜物と
心より感謝申し上げます

株式会社鳥羽洋行の沿革

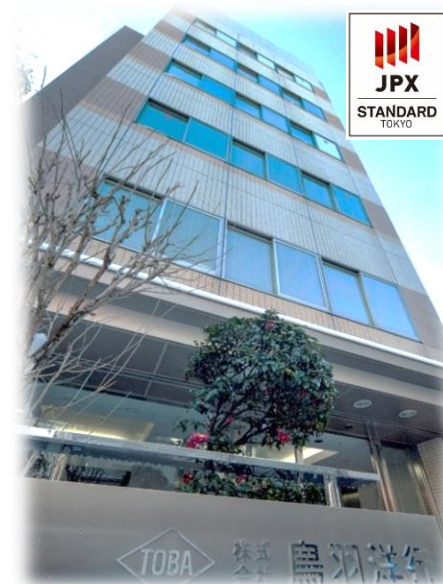
TOBA
120th
ANNIVERSARY

- 1906年 9月 中国大連市にて創業
- 1949年12月 終戦後 東京銀座にて設立
- 1995年11月 株式店頭公開(JASDAQ)市場へ上場
- 2008年12月 鳥羽(上海)貿易有限公司設立
- 2012年 5月 TOBA(THAILAND)設立
- 2014年 7月 TOBA (VIETNAM)設立
- 2022年 4月 東証再編により、スタンダード市場へ
- 2024年 1月 (株)和泉テックを完全子会社化
- 2026年 9月 **創業120周年 ~新たなる挑戦~**

創業者:鳥羽真作 大連時代の本社



旧本社(銀座) 二代目社長:鳥羽実



- I. 2026年3月期決算について
- II. 2027年3月期の戦略及び見通し

I. 2026年3月期決算について

< 連結損益計算書の概要 >

(単位：百万円)

	25/3月期	26/3月期	前期比 (増減率)	備 考
売 上 高	31,565	29,061	△7.9%	
営 業 利 益	1,684	1,494	△11.3%	・売上総利益は前期比△265百万円 ・販管費は前期比 2.5%減
営 業 利 益 率	5.3%	5.1%		
経 常 利 益	1,812	1,612	△11.0%	
経 常 利 益 率	5.7%	5.5%		
親会社株主に帰属する 当 期 純 利 益	1,231	1,107	△10.1%	
当 期 純 利 益 率	3.9%	3.8%		

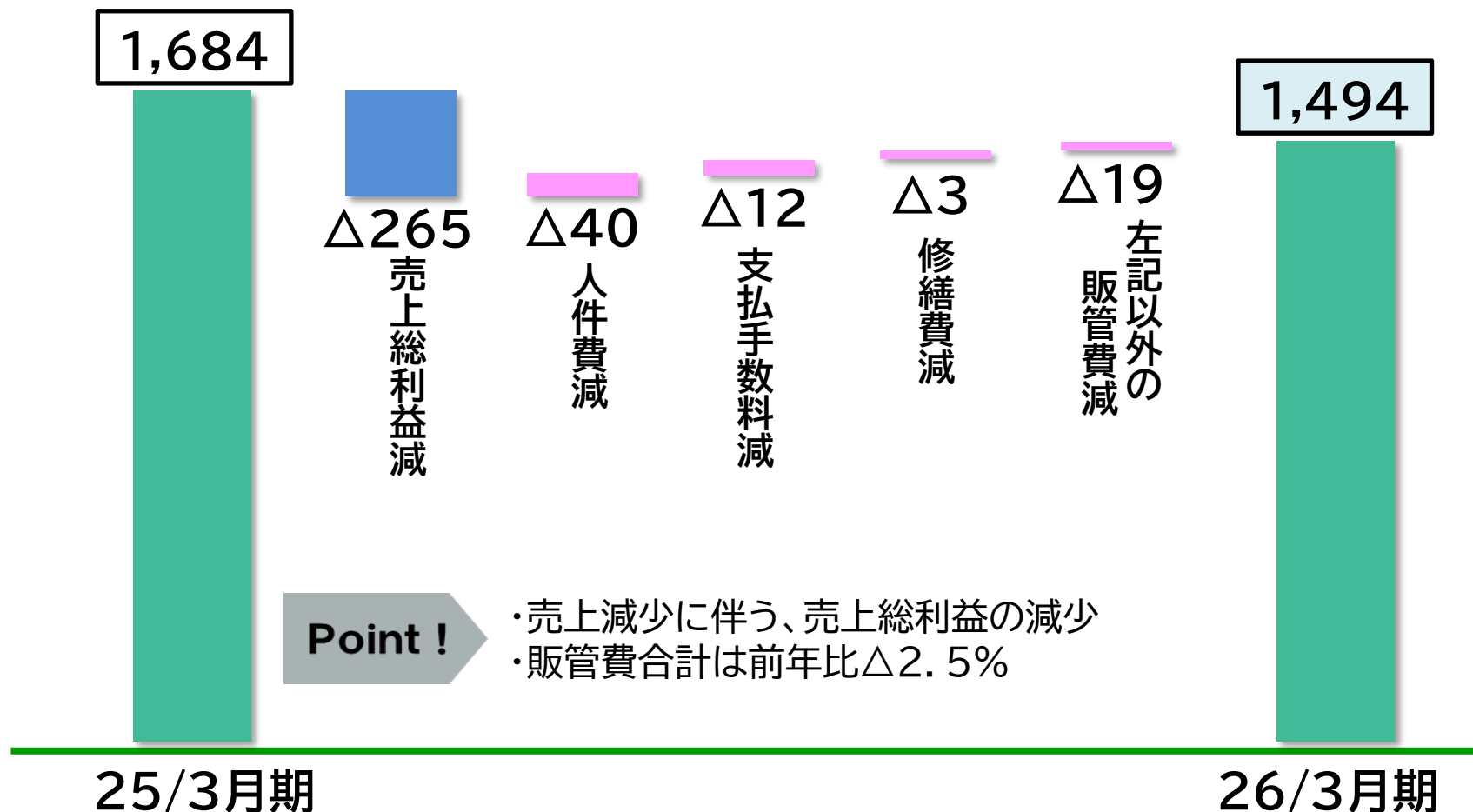
Point !

- 連結売上高は前期比で7.9%減。売上総利益率は0.4Pアップ
- 単体売上高は自動車関連設備投資が低迷し前期比で9.8%減

I. 2026年3月期決算について

<連結営業利益増減分析>

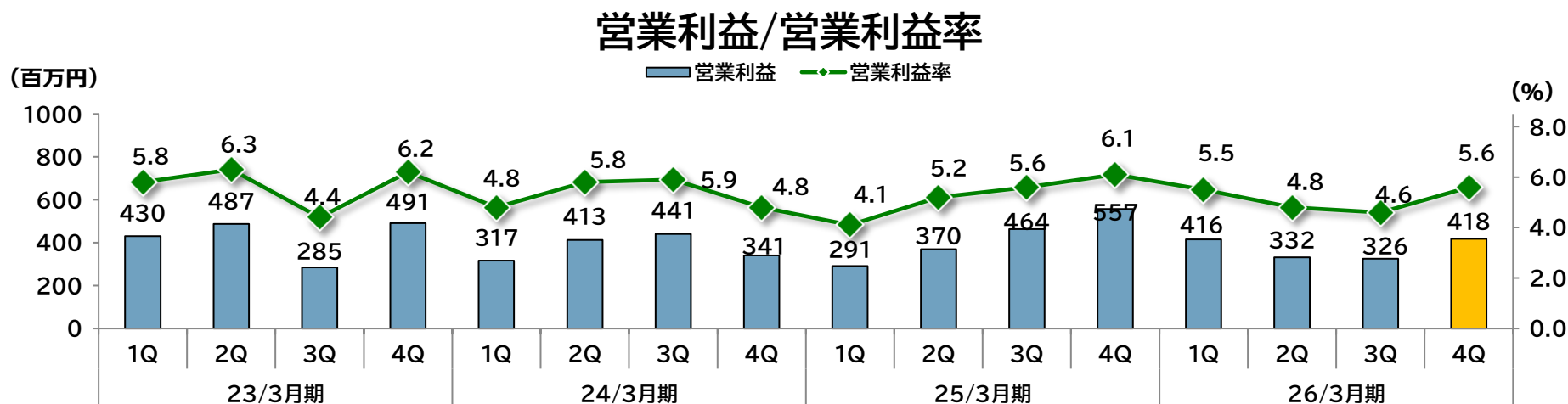
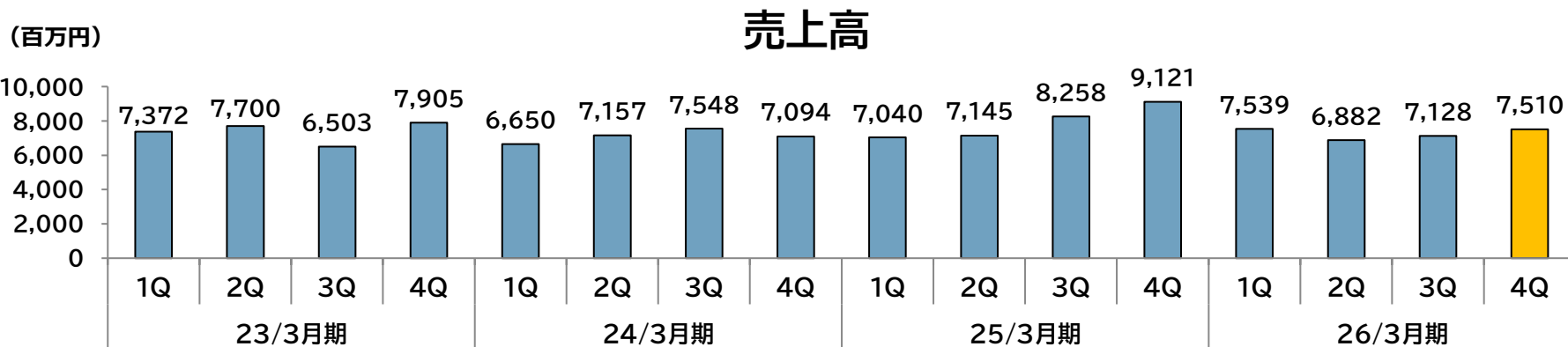
(単位:百万円)



※数値は百万円未満を切り捨てて表記しております。

I. 2026年3月期決算について

<四半期毎の連結売上高/連結営業利益の推移>



Point !

●売上高：今期自動車関連向けが低迷。4Qより、半導体関連向けの受注が回復基調となり、売上/利益ともに上昇傾向。

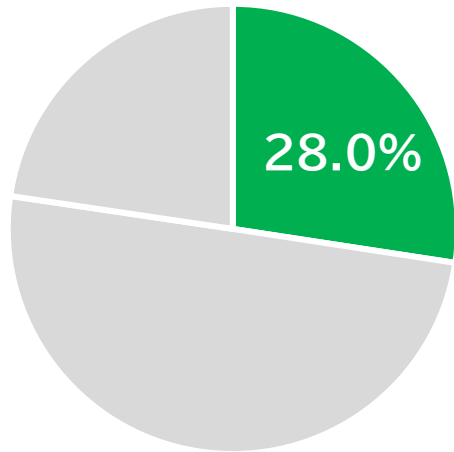
I. 2026年3月期決算について

<部門別連結売上実績及び占有率>

制御機器

連結売上高

81億34百万円



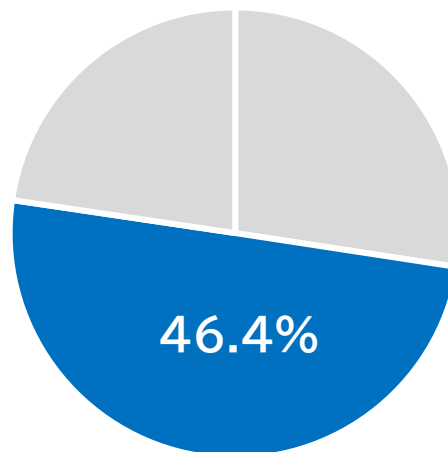
得意先の業種

デジタル機器/半導体・液晶製造装置/基盤実装機/自動車・車載部品/工作機械等

FA機器

連結売上高

134億86百万円



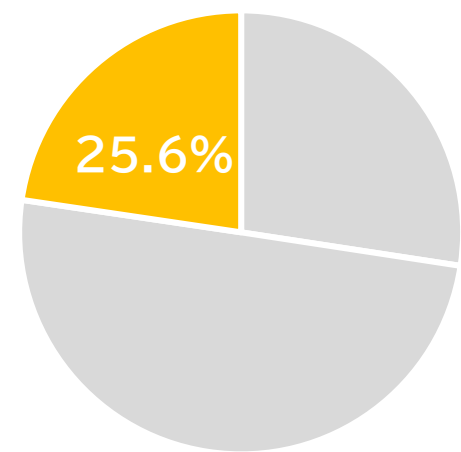
得意先の業種

デジタル機器/自動車・車載部品/半導体・液晶製造装置/OA機器/医療機器/食品機器等

産業機器

連結売上高

74億39百万円



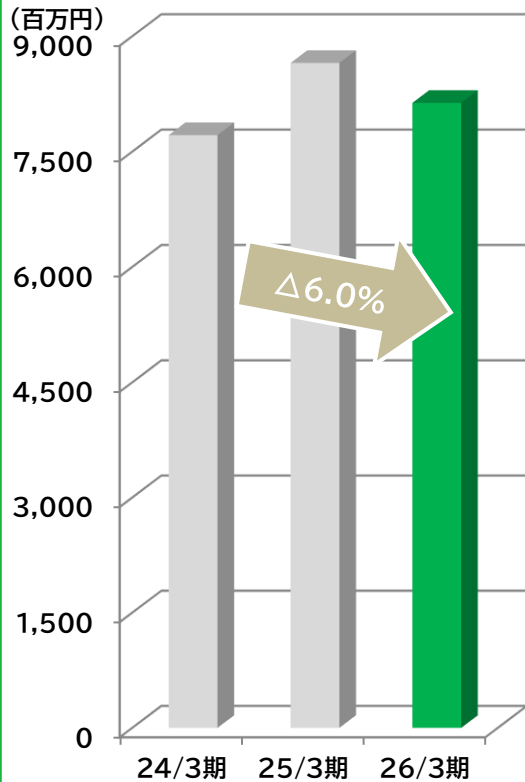
得意先の業種

デジタル機器/自動車・車載部品/半導体・液晶製造装置/精密機器等

I. 2026年3月期決算について

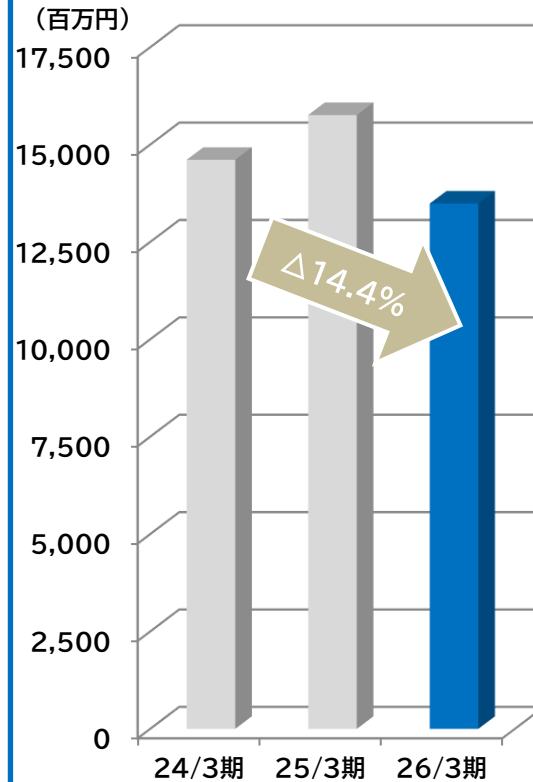
<部門別連結売上高推移>

制御機器



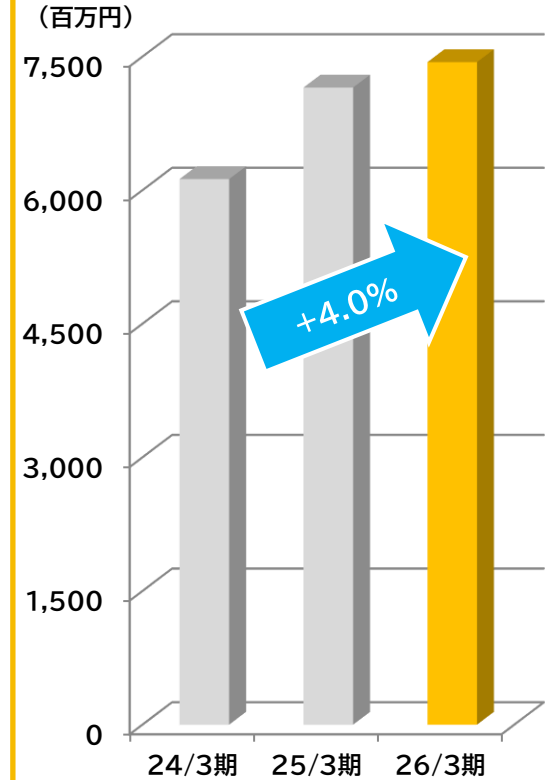
生成AI等の高性能半導体に係る設備投資需要は堅調に推移したが、国内の精密機器に関連する主要得意先への販売が低迷。

FA機器



国内、自動車・車載部品関連得意先へのロボット、マウンター等の自動化設備の販売が大きく減少。中国は前年並み。

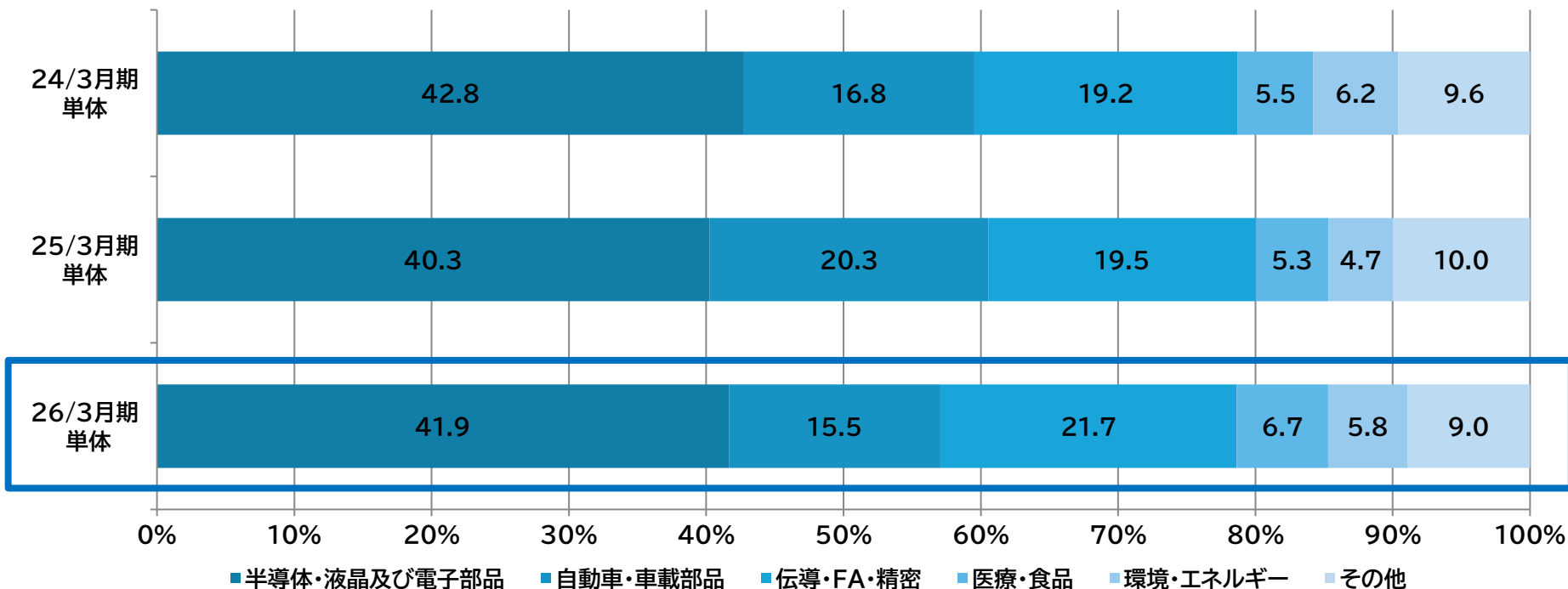
産業機器



半導体設備向けのろ過フィルターの販売が若干前期を下回ったが、二次電池設備向けに搬送システムの大口受注により昨年比増。

I. 2026年3月期決算について

<業種別売上構成比(単体)推移>



Point !

<半導体・液晶及び電子部品>

生成AI用高性能半導体需要は好調に推移、その他回復遅れ (前期比+1.6P)

<自動車・車載部品>

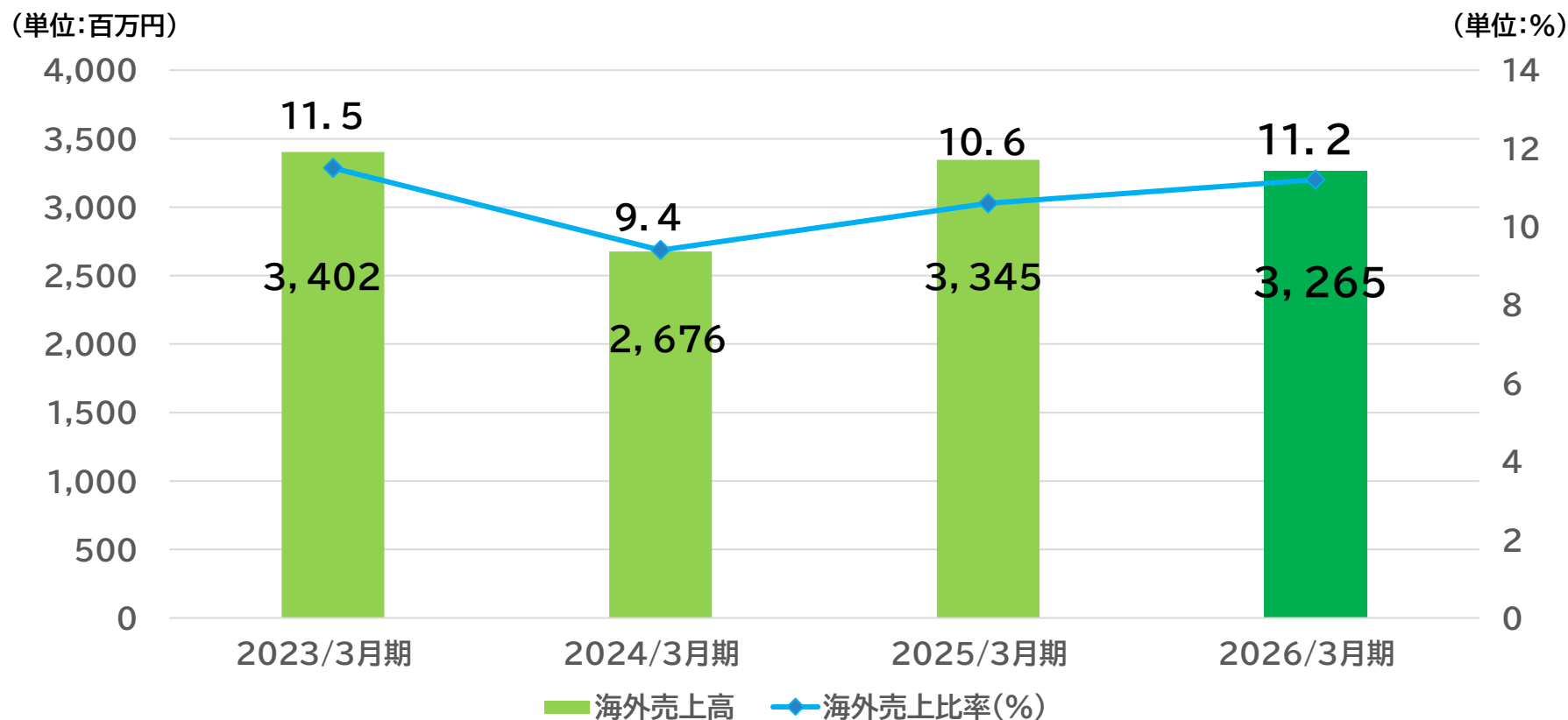
EV減速、米国関税政策の影響を受け、設備投資が大幅縮小 (前期比△4.8P)

<医療・食品>

医療器関連向け販売が増加。(前期比+1.4P)

I. 2026年3月期決算について

<海外売上高・海外売上比率(連結)>



Point !

中国の経済成長は鈍化傾向であるが、中国子会社におけるスマホ向け電子部品に関連する得意先向けのFA機器販売は堅調。全体的な設備投資は前年より低調に推移。

I. 2026年3月期決算について

< 連結貸借対照表の概要 >

(単位:百万円)

	25/3月末	構成比 (%)	26/3月末	構成比 (%)	備 考
流動資産	23,284	75.8	20,884	71.5	
現金・預金	10,472	34.1	12,448	42.6	
受取手形・売掛金 ・電子記録債権	12,022	39.1	7,710	26.4	
商品	604	2.0	552	1.9	
固定資産	7,443	24.2	8,319	28.5	
資産合計	30,728	100.0	29,204	100.0	
流動負債	9,280	30.2	6,773	23.2	
支払手形・買掛金 ・電子記録債務	8,474	27.6	6,149	21.1	
固定負債	465	1.5	624	2.1	
負債合計	9,746	31.7	7,398	25.3	
純資産合計	20,982	68.3	21,806	74.7	
負債純資産合計	30,728	100.0	29,204	100.0	

Point !

構成比に大きな変化はございません。

I. 2026年3月期決算について

<連結キャッシュ・フロー計算書の概要>

(単位:百万円)

	25/3月期	26/3月期	2026年3月期のC Fの主な内訳
営業活動によるC F	△752	3,228	・税金等調整前当期純利益の計上 (+1,641百万円) ・減価償却費 (+174百万円) ・売上債権の減少 (+4,323百万円) ・仕入債務の減少 (△2,335百万円) ・法人税等の支払 (△624百万円)
投資活動によるC F	△579	△623	・定期預金の預入 (△600百万円)
財務活動によるC F	△950	△695	・自己株式の取得 (△180百万円) ・配当金の支払 (△514百万円)
現金及び現金同等物 に係る換算差額	106	66	
現金及び現金同等物 の増減額	△2,175	1,976	
現金及び現金同等物 の期首残高	12,648	10,472	
現金及び現金同等物 の期末残高	10,472	12,448	

- I. 2026年3月期決算について
- II. 2027年3月期の戦略及び見通し

Ⅱ. 2027年3月期の戦略及び見通し

<2027年3月期の市場環境予想>

◆ 半導体関連

生成AI向けの高性能半導体及び汎用メモリー等、好調に推移する見込み。

◆ 自動車・車載部品業界

米国関税政策やEV(電気自動車)市場減速の影響はあるが、ADAS(先進運転支援システム)とHV関連の設備投資は堅調に推移することが予想され、自動車・車載部品関連の生産設備向けの売上は徐々に回復する見込み。

◆ 自動化システム

引続き、生産現場における労働力不足を補う自動化システム案件は増加傾向にあり、ロボット等FA機器の販売は底堅く推移する見込み。
スキルアップのための資格取得及び教育研修等への投資を拡大。

◆ 環境負荷低減商材

カーボンニュートラルに向けた取組みは継続的に高まり、サプライチェーン排出量(Scope)の数値化が進むことで、CO2排出量削減の要求が高まる。
環境に配慮した商材の需要は引き続き高まる見込み。

◆ M&A(事業の多角化)、国内営業所の拡充

理化学系商社の連結子会社化によるシナジー効果により販売先が多角化。
国内営業強化のため、山陰地域への出店を検討、地域のサービス向上と新規開拓を強化。

Ⅱ. 2027年3月期の戦略及び見通し

<2027年3月期の業績予想>

(単位:百万円)

	26/3月期 (実績)	27/3月期 (予想)	前期比 (増減率)
売上高	29,061	32,000	10.1%
営業利益	1,494	1,730	15.8%
営業利益率	5.1%	5.4%	0.3P
経常利益	1,612	1,845	14.4%
経常利益率	5.5%	5.8%	0.3P
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,107	1,240	12.0%
当期純利益率	3.8%	3.9%	0.1P

Ⅱ. 2027年3月期の戦略及び見通し

<中期経営計画「Next Stage 2029」について>

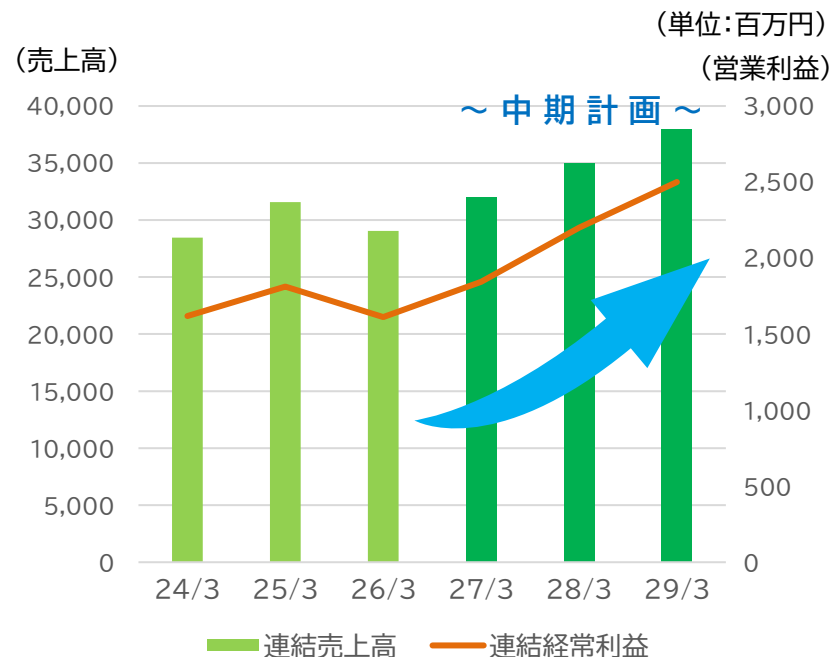
新たに2027年～2029年の3ヶ年計画を2026年5月8日にリリース。

中期経営計画戦略を実行し、事業活動を通じた企業価値の向上と持続可能な社会の実現を目指します。

<中期経営計画 数値目標>

	第78期 (2027/3)	第79期 (2028/3)	第80期 (2029/3)
売上高	32,000	35,000	38,000
営業利益	1,730	2,100	2,350
経常利益	1,845	2,200	2,500
当期純利益	1,240	1,500	1,650

<連結売上高と営業利益の推移>



※当社グループは、経営環境の変化等に対応すべく、「ローリング方式」により、中期経営計画を毎年度策定することとしております。

5つの柱 ～中期経営計画の基本戦略～

1. 次世代の柱となるユーザーの新規開拓、育成

- ・積極的な展示会出展と来場者フォローによる新規顧客開拓
- ・自動車・車載部品及び半導体関連顧客への販売強化
- ・M&Aによるシナジーを活かした売上/利益の拡大

2. 新商材発掘（SDGs/環境や人にやさしい商品）

- ・生産性向上と労働負荷を低減できる新たな商材の発掘
- ・カーボンニュートラルに向けたサプライヤーとの連携強化

3. 装置ビジネスの更なる販売強化

- ・労働力不足を補う自動化装置とロボットの販売強化による売上増大

4. 技術商社としての存在価値強化(ブランド強化)

- ・各種専門資格等の取得による提案型営業推進及び営業研修拡充

5. 海外拠点との連携強化

- ・新規海外拠点の検討
- ・海外子会社への人材積極投入

協働ロボットや小型～中型の産業用ロボット販売に注力



自動化装置ビジネスで生産性向上と労働力不足解消に貢献



AMR：自動搬送ロボット
工場や倉庫での物流搬送で需要拡大

PUDU T300



©Pudu Technology Inc. | SoftBank Robotics

大型展示会への積極出展 ～選ばれる商社となるために～

<2025年度 大型展示会出展実績>

●第5回 工場内の協働ロボット利活用展 (東京ビッグサイト)

開催日：2025年7月23日～25日

来場者数：1,964名

●第28回 機械要素技術展【大阪】 (インテックス大阪)

開催日：2025年10月1日～3日

来場者数：2,535名

<2026年度 大型展示会出展実績/予定>

●ものづくりワールド 機械要素技術展【名古屋】 (ポートメッセ名古屋)

開催日：2026年4月8日～10日

来場者数：2,115名

●第6回 工場の搬送と協働ロボット展 (東京ビッグサイト)

開催日：2026年7月15日～17日

その他、全国各営業拠点にて、プライベート展、セミナー、キャラバン等を開催しております。

展示会場ブースの様子



各種協働ロボット デモ実演



Ⅱ. 2027年3月期の戦略及び見通し

新規取扱い商材

2022年
物流自動化事業開始



<ソフトバンクロボティクス株式会社>

SoftBank
Robotics



2021年
配膳・運搬ロボット



2018年
清掃ロボット



2014年
ヒューマノイド

PUDU T300



©Pudu Technology Inc. | SoftBank Robotics

販売体制

当社は、お客様(ユーザー)へ直接販売を行う「直販体制」を構築しております。



「直販体制」のメリット

- ・ お客様の情報をダイレクトかつタイムリーに収集できる
- ・ お客様の要求に対して最適な提案とスムーズな交渉ができる
- ・ 販売店を介さないため短納期で商品を提供できる

国内23ヶ所の営業拠点

全国各地に拠点を設置し、
徹底したサポート体制を実現

中国・九州ブロック

広島営業所
福岡営業所
大分営業所

関東ブロック

茨城営業所
千葉営業所
東京営業所
東京南営業所
八王子営業所
厚木営業所
甲府営業所

北関東ブロック

青森営業所
仙台営業所
宇都宮営業所
前橋営業所
熊谷営業所
川越営業所

グループ会社
株式会社和泉テック

仙台北社/東京支店

中部ブロック

松本営業所
静岡営業所
名古屋営業所
四日市営業所

関西ブロック

滋賀営業所
大阪営業所
兵庫営業所

茨城営業所移転



海外5ヶ所の営業拠点

新規海外拠点の検討

若手人材の成長に伴い、海外現法へ積極的に配置

中国

鳥羽(上海)貿易有限公司 (2008年)

(同公司)深圳分公司 (2011年)

(同公司)蘇州分公司 (2014年)



鳥羽(上海)貿易有限公司

ベトナム

TOBA, INC. (VIETNAM) CO., LTD (2020年)



TOBA (THAILAND) CO., LTD.

TOBA, INC. (VIETNAM) CO., LTD

タイ

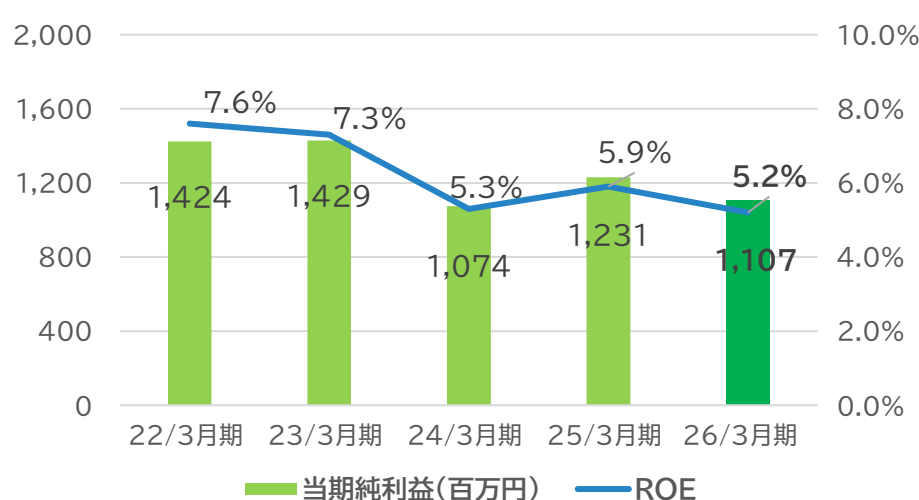
TOBA (THAILAND) CO., LTD. (2012年)

Ⅱ. 2027年3月期の戦略及び見通し

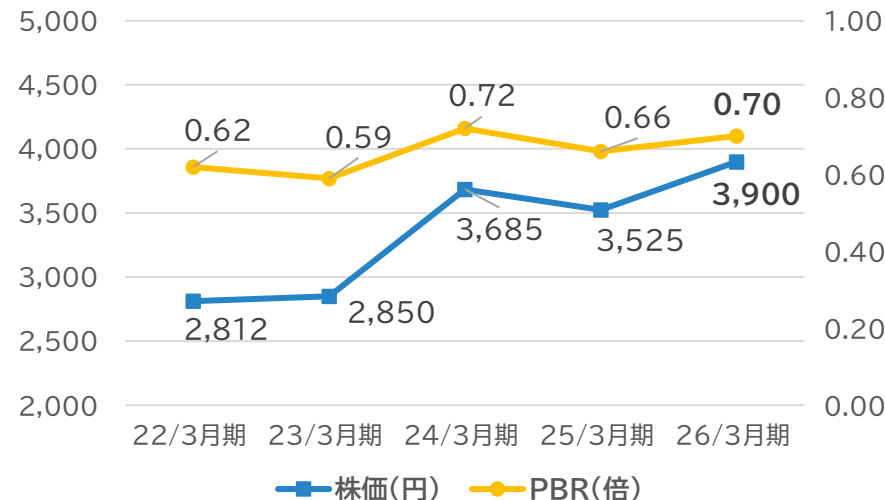
経営指標 ～ 目標 ROE 8% / PBR 1倍以上 ～

中期経営計画における事業拡大戦略の実行と業務効率化の推進による収益性の向上を目指します。人的資本への積極投資を行い、IR活動や非財務情報の適切な開示及び最適な株主還元(配当・自社株買い等)を実行し、株式市場からの評価を得ることで企業価値の向上を目指します。

ROEと当期純利益の推移



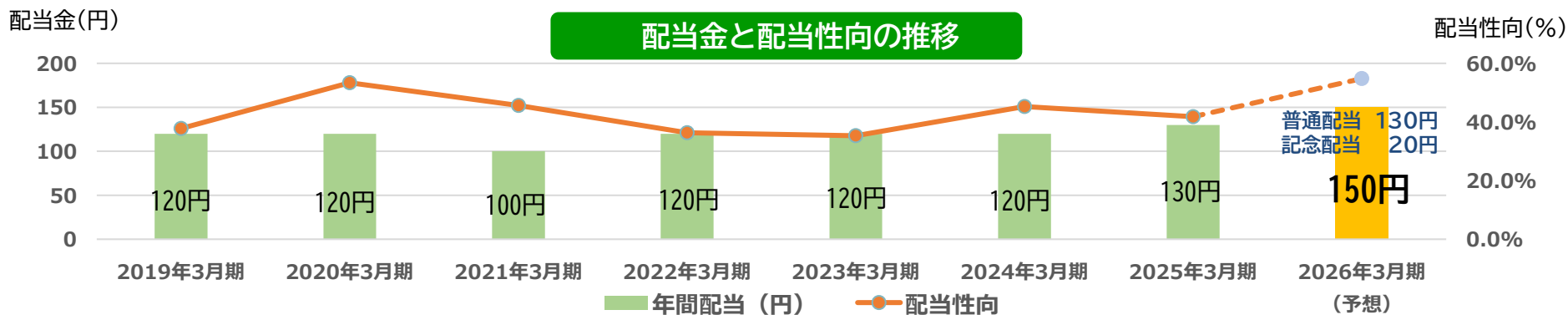
PBRと株価の推移



売上高	当期純利益	株価 (26/3月末)	年間配当 (予定)	配当性向 (予定)	配当利回り (予定)	ROE 自己資本利益率	PER 株価収益率	PBR 株価純資産倍率
290億円	11億円	3,900円	150円	53.2%	3.8%	5.2%	13.8倍	0.7倍

株主還元

- ◆ 配当方針: 長期的、安定的な利益還元の実施を目標とする
- ◆ 連結配当性向を35%以上とし、一株当たりの配当金を下限40円とする
- ◆ 自己株式の取得等の間接的な株主還元についても機動的に実施



自己株式の取得状況

実施時期	取得株式数	取得単価	取得額	発行済み株式総数 に対する割合
2021年11月	70,000株	2,561円	179百万円	1.40%
2022年2月	50,000株	2,780円	139百万円	1.00%
2022年11月	145,000株	2,750円	398百万円	3.10%
2023年5月	33,800株	2,940円	99百万円	0.70%
2023年11月	80,000株	3,115円	249百万円	1.70%
2024年5月	56,000株	3,600円	201百万円	1.10%
2025年8月	45,000株	4,010円	180百万円	1.00%
合計	479,800株	-	1,447百万円	10.20%

この資料には、2026年5月11日現在における弊社の将来に関する前提・見通し・計画に基づく予測が含まれております。世界経済・競業状況等に関わるリスクや不安定要因により実際の業績が記載の数値と大幅に異なる可能性があります。

従いまして、その内容につきましては、当社は一切責任を負うものではありませんのでご了承ください。また、本プレゼンテーションは、投資を勧める目的のものではございません。

[問い合わせ先]

株式会社 鳥羽洋行
管理本部総務グループIR担当
住所: 〒112-0005
東京都文京区水道2丁目8番6号
電話番号: 03-3944-4031
FAX番号: 03-3944-4091
Eメール: kanri-01@toba.co.jp